

私たちは現在の世界情勢に本当に用意ができていますか？

統一思想が今まで以上に必要な思想であるより緊急な理由

デヴィッド・A・カールソン
清心大学院 神学博士

序論

この随筆を公表するのは、簡単な問題ではなかった。それはアカデミックに難しかったのではなく、多くの霊的な戦いがあったからである。私はこれらの内容を書くべきかどうか、非常に葛藤した。私は、最近教養の学生になって学んだが、そして、カルチュラル・スタディーズが魅惑的であることがわかった。現代の文化について、私は言いたいことがあったが、そのことで何人かの人々と論争になったかもしれない。

私の同僚 (Unificationists) と何人かの友人は、いくらか不快に感じて、私が言うことに同意しないかもしれない。数年前の、この同じ Symposium において、ある同僚が、内容の私の論文にいくつかの疑問を挙げたが(それはこの論文と同様の内容を含んでいた)、私がさらに研究して、考察すれば考察するほど、私たちが危険を感じながら無視している、私たちの世界で起こる重大事件に、私たちが、より強くもっと厳密な注意を向けなければならない出来事があると感じている。したがって、私はある信念をもってこの随筆を提供する。私が、ここで表現することは正しく、重要であると考えてるので、私が間違っていると私に納得させる方を心から迎えたいと感じている。

カール・マルクスがいみじくも述べたように、この随筆のポイントはつぎのようである。：

「哲学者はいろいろ世界を解釈するだけであった」

「重要なことは、しかしながら、世界を変えることである」(1)。

最も問題なのはこの声明の「変える」ということである。

私たちは、非常に真剣にマルクスの声明を受け止める必要があると思う。

マルクスは共産主義運動の創設者であった、そして、歴史はマルクスレーニン主義が世界に及ぼした莫大な影響力を証言している。

私たちが「理想世界」を建設する試みを成功させようとするならば、現在、2013年から2014年に、私たちは正確にいかなる種類の変化が起こっているか、そして、より重要なことは、背後の原動力は何か、理解することが欠かせない。

これらの統一思想シンポジウムでは、学者がしばしば非常に哲学的な論文を提示して、それらについてある程度議論して、次に、私たちは、私たちの自国に戻って、研究を続けている。

私たちは、統一思想がただ「良い」哲学であるだけではなく、緊急なメッセージであることを本当に理解しているのだろうか？：

私たちが真に後孫のために、理想世界を実現しようと思うなら、私たちの社会の問題を解決しなければならない。

それは、単にこれらの問題について考えるべきであるとか、または議論するべきであるというだけでなく、これらの問題を解決しなければならないのである。

私たちが今日直面している問題は、前例のないものである。

それがただ、ひまひまに「価値中立の世界」で問題を解決するのであれば、そのように重大な要請ではないが、だが実際には、私たちは価値中立の世界に住んでいない。

私たちは、私たちが求めているものに反対している力が活発に、私たちに不利に働いている世界に住んでいる。

バックグラウンド

私が何を言うつもりであるか、より正しく理解するためには、歴史的背景と脈絡(再臨主降臨のための摂理的な準備に関する統一原理の説明)を考えることが助けになるだろう。

統一原理は過去 400 年の 1918 年までの哲学的な経過について説明する(2)。

宗教と思想の闘争期(1648-1789)では、様々な哲学的見解が展開されたが、そこには経験論と合理論という近代哲学の二つの流派があった。

これらの哲学的展望は、結局、人々の関心を神から遠ざけて、人間の理性を重んじる人生観に向かう重要な役割を果たした。この人生観は、人々を神から遠ざけたのでカイン型の人生観という。これはとても重要な問題である。

理論論(エドワード・ハーバート)、ヘーゲル、シュトラウス、フォイエルバッハらの思想は、共産主義世界の礎石であるマルクス・エンゲルスの思想として実を結んだ(3)。

他方、アベル型の人生観は民主世界の実を結んだ(4)。

かくして、今日「二つの世界」が現れた。

統一原理によれば、アダムの家族において、メシヤの基台を造るために、アベルはカインを屈服せしめ、その基台の上に、神が世界を救済するためのメシヤを迎えなければならない。

理想世界を建設するためには、神を中心とした理想家庭が果たすべき重要な役割がある。

グローバルな今日に、このシナリオを広げれば、メシヤのための基台を造るためにアベル(民主主義)はカイン(共産主義)を屈服せしめなければならない。そのために、二つの世界が具体化するために、二つの人生観が生まれる必要があった:アベル型とカイン型の人生観である。

この二つの人生観の出現がまさに 1648-1789 年の間であった。

要するに、これは近代 400 年の歴史の重要性を示しているのである。

しかしながら、何が最も重要であるかは、私たちが歴史的にどのように到着したかを理解するだけでなく、私たちが今から何をしなければならぬかを理解することである。

民主主義世界は、過去 400 年間に、多くの人々に信じられないほどの自由と繁栄をもたらす文化と社会を展開させた。固く神を信じた人々が、良い社会を導き、実現したのであった。名前を挙げられる人々の中には、ピューリタン、およびアメリカの建国の父、ジョージ・ワシントンがいる。

ここに、文師がそのような人々に関して述べたものがある:

アメリカ人のピルグリムファーザーズは神の摂理の一例である。それは正義の一例である。彼らはアブラハムや、イサクや、モーセなどの義人たちに匹敵する。ピルグリムファーザーズの信仰は神の心情に触れていた。彼らは神への信仰とビジョンを決して失わなかった。神は、ここ、アメリカで彼の民を救うために介在したのであった、というのが私の信念である。

ジョージ・ワシントンは多くの戦いで苦杯をなめた。彼がヴァレー・フォージで絶望的な冬に直面した時、彼は真剣であったと、私は確信している。ジョージ・ワシントンは祈った。神よ、あなたは、私

たちを解放して、自由を与えられた。私の誓いを捧げます。私は神の下の1つの国を造ります。得られた勝利は、神のための勝利であった(5)。

民主主義世界(アベル型の世界)の展開に関して言及すべき多くの人々、そして神が彼らを祝福した様々なことがあった。しかし、この随筆の私の目的は、他の世界、カイン型、すなわち共産世界について考察することである。私たちは、特にそれが今日現れているように、その性格と展開について、もっと気づくべきである。そして、私たちは、民主主義世界の私たちが何に直面しているか、理解すべきである。それは民主主義世界の私たちが打ち勝たなければならないカイン型世界の世界のことである。

共産主義の現在の状況

すでに述べたように、共産主義と民主主義は、いち早く現れた二つのタイプの世界観に基づいて生まれた。そして二つの世界の間には緊迫した緊張関係が生じた。

私は私の高校時代(1960年代)のことを思い出すことができる、その時アメリカ(民主主義)とロシア(共産主義)によって代表された、二つの世界の激しい闘争の場合、その緊張の頂点において、アメリカの多くの人々は、自分達が防空壕を造るべきであるかどうか心配していた。

もちろん、その後、共産主義は「崩壊した」。多くの人々は、「悪の帝国」の「崩壊」は米国大統領ロナルド・レーガンの功績であると考えているが、真に崩壊をもたらしたのは文師であった。しかしながら、私はレーガン大統領が多くの貢献をしたことを確信している、そして、二人の方に、それぞれふさわしい評価を与えることができる。ともかく、「共産主義は崩壊した」。しかしながら、1958年に文師が語られたことに注目してみよう。彼は述べた：

「共産主義が崩れるとき、アラブ諸国を通して蘇り、再び民主主義世界に反対するだろう。」

「私が最も心配しているのが、アラブ諸国と民主主義世界の間には、戦いが起きうるということである」(6)。そこに三つの指摘があった。：

- 1) 共産主義は崩壊する。
- 2) アラブ(イスラム教)の国を通じて蘇える。
- 3) それは再び民主主義世界に挑戦するだろう。

私たちはこの予言的な発声を真剣に受け止めなければならない。共産主義が非常に強く思えたとき、だれが当時(1958)、共産主義が崩れるだろうと考えることができたであろう。

PWPAの国際会議で、共産主義の終わりを発表するように文師で頼まれたとき、一人の学者、モートン・カプラン氏は気が進まなかった；しかし、彼は、文師の主張に、彼の学歴と信頼性を委ねて、共産主義の終わりを発表した。そして実際に、その予言は共産主義の崩壊で実現された。しかしながら、とても面倒なことに、今日、イスラム聖戦(ジハード)の形で、文師の第二の予言の実現が見えているということである、ジェローム・コルシは、NCRI(イランの革命のための国家評議会)に関して次のように述べている。：

NCRIは米国によって、イランのムジャヒディン(ムジャヒディン・ハルク、または人民ムジャヒディン MEKとして知られている)の前衛体であると特定された。その結果、国務省はNCRI(様々な名前と呼ばれている)をテロ組織として分類している。

1965年にテヘランに設立されたMEKは、そのユニークな政治的、神学的な特性として、急進的なマルキシズムとイスラム教神学のユニークな結合であることを明らかにした(7)。

また、アラーを信じるイスラム教の一派が、その教理をマルキシズム(マルキシズムは、無神論であって唯物論的である!)と結合させているのは、かなりおかしなことである。しかし、それはまさに文師が予言したことが起きているのである。

キリスト教が、例えば、アメリカの性格を形成したように、イスラム教はアラブ世界の性格を形成した。さらに、まさに文師が予言したように、イスラムのジハードが再び民主主義世界に挑戦しているのである。アメリカは繰り返して「大悪魔」と呼ばれている。9・11のテロは西洋とアメリカへのイスラム・ジハードの憎しみを表すまさに典型的な事件であった、特に、イスラム・ジハードに固有な憎しみであった。このグループ(NCRI や MEK)は、確かにマルキシズムの要素を公言している。すなわち、文師が予言したことが起こるだろう。

*Because They Hate*の作者、ミシェル・ガブリエル (8)は、レバノンで成長して、イスラム政権の影のあるテロを直接経験した(9)。

現在、彼女は、イスラム聖戦(ジハード)の危険に関して明確に西洋の世界、およびアメリカに警告する本を書いている。彼女は次のように述べている。

あなたが中東とイスラム聖戦が如何に西洋に対処ようとしているか理解しようとするならば、このことを知みなさい：過去を理解せずして、あなたは決して現在を理解し、未来への計画を立てることはできないだろう(10)。

彼女の本のサブタイトルは暗示的である：

「イスラム教テロの生存者はアメリカに警告する」(11)。

彼女は何をアメリカに警告しているのであろうか？

「レバノンがそうであったように、合衆国は根本主義者のイスラム教神学に脅かされ、イスラム過激派はすべての非イスラム教国を支配しようと、止まるところを知らない」と警告している(12)。

これはかつて聞いたことがあるではないか？

そうである。

これは、共産主義によってなされたのと同じ主張である。

ガブリエルの別の本、*They Must Be Stopped*では、「私たちはなぜイスラム過激派を打倒しなければならないか」と、彼女は言う(13)。

彼女はこの警告を世界に与える：

「私たちはもうイスラム過激派の膨張無視できない。私たちはすぐ、強力に行動しなければならない」(14)。彼女は「イスラム過激派がとても危険なのはなぜか、そして私たちは、どのようにして彼らの進撃をくい止めることができるかを示しながら、イスラム教に関する西側の政治的な見解に警告している」(15)。

ガブリエルの本は、神の国と、神の長子の国としてのアメリカの役割と、アメリカが果たすべき霊的な使命に関して心配している人々にとって必読の書である。

最近のインターネット記事を見れば、どうやらまさしく、かつて文師が予言された。「21世紀の共産主義」としてのイスラム聖戦が現れてきたようだ(16)。それは避けることができない。

イスラム教とイスラム聖戦(ジハード)に関して

イスラム教とイスラム聖戦機構に関して多くのことが語られ、書かれている(17)。

私の考えでは、私がそれに関して学ぶようになったことに基づいて言えば、イスラム教は明確にアベル側とカイン側を持っている。

イスラム教のアベル型は仏教、ヒンズーなどと共に、本物の宗教であり、彼らはアラーを信じて、良い家庭を築こうとしている。

文師は時折マホメットに関してコメントした。そして、統一運動では、マホメットとイエスが霊界で霊的に近くにいることが知られている。

イエス、モハメッド、仏陀、および孔子は、人類歴史の偉大な聖者と呼ばれている。彼らは自己の伝統を子孫に委ねたが、やがて組織化されて、宗教となり、偉大な文明を造り上げた。宗教の創設者は何を教えているのであろうか？ 彼らは、神のみ言に従い、人々を神へと導いた(18)。

私はある程度イスラム教を学び、私の授業の一部として、信仰の道としてのイスラム教を教えている。したがって私は、イスラム教が非常に興味深く、真なる世界宗教であると言うことができる。金英雲らは、世界宗教としてイスラム教を評価している(19)。

これはイスラム教のアベル的な側面である。

すべての宗教と同様に、それは人々を神への道へと導いている。それにもかかわらず、アベル型のイスラム教が良いのと、ちょうど同じくらい、イスラム教のカイン型は、まぎれもなく邪悪であり、殺人、女性の虐待、性的虐待などを奨励し、実行している。イスラム教のカイン型がイスラム教のアベル型が良いのとちょうど同じくらい邪悪であるということは、私の心には疑いの余地がほとんどない。

ちょうど文師が予言したように、私たちは、共産主義精神がイスラム聖戦機構(カイン型のイスラム教)のような組織を通して働いていることを理解しなければならないと思う。

それは、現に残虐な行為を遂行しているからである。

しかし私は、そのような精神はイスラム聖戦機構だけに限られないことを強調しなければならない。

共産主義精神は個人、グループ、組織、社会構造、および思想団体を通して、今日、私たちの社会で働いている。私は、そのいくつかに触れようと思う。しかしながら、私がそうする前に、自分自身、できるだけ明かにしておかなくてはならない。

本当の元凶はだれか？

共産主義か？

イスラム聖戦機構か？

オサマ・ビン・ラディンか？

実は、それらのいずれでもない。

これらは単に手段である。

特定された真の元凶

「共産主義」の背後にだれがいるのか？

文師が言及した「共産主義精神」とは、誰か？ 何か？

カール・マルクスか、レーニンか、または毛沢東か？

それとも文師が何らかの個人的な出会いをした金日成か？

いいえ、本当の元凶はこれらの人間のいずれでもない。

本当の元凶ははるかに陰悪である。

本当の元凶は霊的な存在である：

「サタン」である。(清平で大母様はサタンを個人的な呼び名でなく、一般的な呼び名として使っておられる。したがって、私たちは、どんな邪悪な実体についても言及するのに「サタン」という用語を使用できる。) 霊的な実体として、サタン王は時間と空間を超えることができる。これが、今も働いている霊的存在である。要するに、共産主義精神の背後に、実体のまさしく悪魔の力があり、神のものすべてを破壊しようと強く働いているのである。

この悪魔の力は、過去に、マルクス、レーニン、毛沢東、および金日成を導いて、彼らのイデオロギーを構築させたのであった。しかしながら、私たちにとって、より不吉なことは、今日この同じ悪魔の力が、イスラム聖戦機構を奮い立たせ続けているばかりでなく、多くの人々、および様々なグループと様々な社会的な組織を奮い立たせているのである。

私は、このことを詳しく説明するつもりである。

今日、イスラム教のジハードを「奮い立たせている」のは、この同じ悪魔(純粋に邪悪な)の力である。

妻を打ち首にする男性に関する記事を読むとき、私は、これが邪悪であるといわざるを得ない。

家族の「名誉を汚した」と言って、娘の頭を切り落としている男性に関して読むとき、私は、これが邪悪であるといわざるを得ない。イスラム教徒は、これを「名誉殺人」であると主張する。とんでもない。そのような行為に尊敬すべきものは何もない。

殺人は殺人である。

殺害は殺害である。

腰に縛った爆弾で、子供を含む罪もない人々を爆死させる自爆テロに関して読むと、私は、これが紛れもない罪悪であると思うだけである。

14歳の処女の「妻」と激しい性交をして出血死させたイスラム教徒の男性の記事を読むとき、私は、これは罪悪であると思うだけである。

「おまえたちの妻のうちで月経がないときまった年齢に達した者でも、おまえたちが疑念をもつものであれば、その期間は三ヶ月とする。月経をまだ見ないものも同じである」(コーラン 65: 4) (21)。

問題の「待つべき期間」とは、イスラム教徒の男性が「妻」と法的に離婚できる(シャリア法)前に、通らなければならない期間である。まず「妻」という言葉が複数であることに注目しよう。イスラム教徒の男性が1人以上の妻と結婚できるのは、周知のことである。第二に、これらの「妻」の一人が「まだ月経がない」若い少女であるかもしれないことに注目しよう。「まだ、月経がない」のはまだ若いからである。イスラム教では、子供の結婚は非常に一般的であった(22)。

ヤギカラクダと性交して、オルガスムに達した後に、その肉を彼の隣人に販売してはいけないが、隣人でない他の誰かに販売するのは、オーケーであるという。私は、統一原理の立場から見る場合、これはまさに紛れもない罪悪であるといわざるを得ない。

これよりさらに悪い例が報道されているが、この種の論文において適切でない限り、私はここでそれらに触れないことにする。

尊敬すべきアベル型のイスラム教があるが、また、明らかに、カイン型のイスラム教がある。カイン型のイスラム教の背後には、悪魔の力が作用している。その背後の力はアラブ世界に向かって行き、そして今、共産主義がそうであったように、西洋の世界に立ち向かい、脅し、荒廃をもたらしている。

世界は変化している：私たちが切に必要とするもの

もう一度カール・マルクスの宣言に戻ろう。

「哲学者はいろいろ世界を解釈するだけであった」

「しかしながら、重要なことはそれを変えることである」(23)

「哲学者はいろいろ世界を解釈するだけであった」

「しかしながら、重要なことはそれを変えることである」(23)

私たちの目の前でなされていることを見るならば、私たちは、真剣にマルクスの宣言を受け止める必要があると思う！

皮肉にも、文師はまさに反対の意味で同様な声明をなされた。

神が創造時に願った平和な理想世界、そして、人間を創造したときに神が願われたことが、今日、目の前で実現されることを忘れないでほしい(24)。

私たちの目の前でまさしく世界は変わっている。

いくつかの変化は神の側に向かっているが、他のものはその反対に向かっている。

そして、もちろん、いくらかの変化は必然的で、予期されたものである、

統一原理は終末の変化について語っており(25)、統一思想は「歴史的変化」の性格について説明している(26)。

その説明における重要なポイントは、「良いリーダー」、すなわち神の側の正義のリーダーの存在である。現在の「墮落している」世界を善なる世界へ変えるためには、その変化を導く指導者と民が必要である。しかし、そのような変化の範囲、性格、方向はまだ決定されていない重要な課題である。率直に言えば、真の父母がその「善なるリーダー」である。そして、統一思想を促進する私たちがその民である。

統一原理は次のように述べる。

「人類歴史の進歩は、善悪の渦中において、断固として悪を拒絶し、善を促進する人々からなされる。」(27) 今日、多くの人々が「眠っている」(仏教徒の言う意味で)。変化は私たち周りで起こっているが、彼らは、何が起きているか、完全に意識しているというわけではない。

多くの人々は世界で起きていることに関して、その本質に気づかない。

私たちの「墮落している性質」は言うまでもなく、私たちは物質的な欲求、および当面の欲求に、あまりにも身を任せている。

私たちは、何が本当に私たちの周り世界で起きていることに関して目覚める必要がある。

最初にアメリカに来たとき、文師は宣言した。

「アメリカよ、目覚めよ！」

「共産主義は間違っている！」(27)

今、私たちは次のように言うことができる。

「世界の人々、目覚めよ！」

「善を実現しなければならない！」

世界は、単に自動的に変化しているのではなく、私たちのためにならない力によって、積極的に変化させられている。多くの場合、考えられる限り最も悪意ある力によって(28)、そしてどんな正常で、道徳的で、理性的な人も願わないやり方で変えられている。すなわち、この変化をもたらす、促進し、刺激しているのは、真実で、善なる、美しいすべてのものを分裂させ、破壊しようとしている、悪魔の、陰湿で邪悪な力である。そのような変化のただ中において、われわれ統一主義者は何をしているか？

私たちは悪を拒絶して、善良さを促進するための決然とした努力をしているか？

残念ながら、私は、私たちの多くがそうでないと感じている。

少なくとも、私たちはもっといろいろな事ができていた。

統一思想が問題を解決するように真に試みるならば、私たちは過去よりもっとアクティブにならなければならない。緊急に、いくつかの非常に不吉な問題が解決策を必要としているのだから。

例えば、ほとんど隔週ごとに、アメリカの各州で同性愛者間の結婚を合法化しようとしている。

2013年12月の最も大きい見出しの一つは「Duck Dynasty」の司教の一人によってなされた所見に関する「激しい」討論である。

「ハリウッドのエリート」の或るものは、まるでそれらがある種の権威であるかのように、「2セント」の価値を加えることが必要であると感じているように思える。

私たち、神の世界観を信じるものには黙っている余裕はない。

これらの問題を解決できる他の誰もいない。政治家、科学者、またはエコノミストがこれらの問題を解決することはできない。そして、いわゆるいかなるハリウッド「有名人」でも、できない。

再言すれば、問題は、多くの人々が、何が社会で起きているかを「眠って」いて意識していないか、何が起きているかを意識していても、彼らは起きていることが間違っていると意識していないことである。

もはや、文化には道徳観念が全くない。絶対価値よりむしろ相対的価値は私たち時代思潮であるように思える。そのような「時代の精神」は、中世社会がルネサンスへと変えられていった時の状況と似ているということには想像に難くない。

このような独りよがりな見解を支持し、積極的に光をあてながら、些細なことを報道し、正しい見解を馬鹿にしている、リベラルなプレスとメディアによって奨励されている。なぜプレスとメディアはそのような無責任な態度で行動しているのだろうか？

私は、簡潔にこの質問に答えるつもりである。

この悪魔の力には、そもそも最初から悪の王国を創設する目的があった。その力は、様々な仕方で現れ、私たちの生きている社会状況を形成している。この悪魔の力は、完全に神なしで、現世をすべての価値のない世界に変えることを目指している。この悪の「王国」は、「文化的な共産主義」と呼ばれるものを通して、非常に活発に働いているのであり、今や、非常にうまくいっていることを理解しなければならない。それは多くの人々が認めているよりうまくいっている。

マルクスが述べたように、文化的な共産主義はまさに世界を変えている。

私は既にこの悪魔の力が、いかにイスラム聖戦機構の形でカイン型のイスラム教を活気づけるようになったかを批評した。しかし、この同じ悪魔の力はカイン型のイスラム教への影響のみならず、はるかに広くて、文化的なレベルに作用している。

ちょうど、ルネサンスが「古代ギリシャとローマの思想と人生を模倣する動きとして、始まって」、次に、「中世の生き方を変えたより広い運動に展開した」ように(30)、この悪魔の力は今日、私たちの生き方を変えるより広い「文化的な」力に発展した(31)。この悪魔の力は、いろいろなやり方で、今日、私たちの世界

で、多くの看板を掲げながら、様々な思想、信仰、学派において現れている。それは多くの名前と呼ばれている(32)。

今日、私たちは、これらの思想の学派を説明するのに、自由主義、世俗主義、科学主義、進歩主義、社会主義、急進主義、無神論、相対論、進化論、脱構築主義、フェミニズム、急進主義の、そして、クイア理論(私が昨年シンポジウムで、大谷氏から学んだ理論)、同性愛、レズビアン、トランスジェンダー、ゲイライツ・ムーブメント、ウォール街占拠運動などの標題を何気なく振り回している。そして私たちは、背後から思想、感情、および動機を活気づけている、悪魔の精神があることを知らずに、それにかかわっている人々と同様に、ふるまっているのである。

次のことを理解するのは、非常に重要である：

これらのすべての様々な見解や「主義」が共通にもっているところの、それらを奮い立たせ、活気づけているこの悪魔の精神のことである。特に、この悪魔の影響を哲学や思想の分野に見出すことができる。この同じ悪魔の精神は、大学、メディア、裁判制度、政治、芸能界などで見ることができる。それは見えない「王国」として広がっており。これらの領域のすべて人々に影響を及ぼしている。

統一原理は、この悪魔の精神が天使ルーシェルに由来するという(33)。興味深いことに、彼女の最近の本、*Demonic* で、アン・クルターはルーシェルに関する章で、ルーシェルを「究極の暴徒のボス」と呼ぶ(34)。

彼女の本には効果的な副題がついている：

「民主党の暴徒たちは、いかにアメリカを危機に陥れているか。」

ルーシェルは神に「帰還している」が、まだ多数の悪魔のスピリッツが活動しており、いたる所で個人と家族に影響を及ぼしている。

共産主義の本質、人々をどのように利用するか。

共産主義の性格に関する洞察に満ちた著書で、フレッド・シュワルツは、共産主義運動に関わっている人々を分類している：

1) 共産主義者、2) 仲間、3) シンパ、4) 疑似自由主義者、5) お人よし。

だれでも、この終りの方の3つのグループに含まれている人を見つけることができるかもしれない。

シンパの人たちは、「共産主義者にたいして、もう少し寛容と理解が示されるならば、彼らは徐々に受け入れられる、穏やかな運動になるだろう」というナイーブな望みを抱いているかもしれない(35)。

そのような悪魔の力が、本当にナイーブな人間の願いを気に掛けていると思っているのか？

しばしば疑似自由主義者を、大学などで見かけることができるが、彼らはただ理論だけで動いている、インテリである。例えば、しばしば弁護士もそうであって、彼らは「言論の自由」について主張するかもしれないが、彼らは「疑わしい目的を達成するのに法律を使用する」傾向がある(36)。

最終的に、お人よしがいる。彼ら、単に、お人よしである。お人よしは「容易にあざむかれ、だまされる」人である。お人よしは「馬鹿」である(37)。お人よしは愛国的で、善意の市民であるかもしれないが、あらゆる、もっともらしい大義に引っ張られていく(38)。これが私たちの社会における、多くの人々の偽らざる姿ある。

彼らは、必ず「会員証を持っている」共産主義者、または「邪悪な」人というわけではないが、共産主義に共鳴するグループに利用されていたり、または彼らが友人として共産主義の目標と理想に沿って働いているなら、彼らは同罪である。悲しいことに、彼らは気づかないまま、軽率に、邪悪なプログラムを手助けし、

支持し、寄与しているのである。彼らは何か良いことをしていると考え、信じながら、眠っているのである。統一原理は序論でそのことを指摘しているのである。

イスラム聖戦（ジハード）は共産主義戦術を用いている

私は、イスラム聖戦機構と共産主義の本質に関して述べた。

文師の予言に戻ろう。

文師は述べた。「共産主義精神は、アラブ世界に入って、再び西洋の世界に反対するだろう」。

イスラム聖戦機構の戦略と戦術を観測するとき、それがいかに密接に伝統的な共産主義戦略と戦術に類似しているか、驚くべきことである。

共産主義では、もしそれが共産主義の目標を促進するのであれば、うそをつくことも許された。

1958年に文師がなされた予言は、驚くほど本当になった。

例えば、イスラム聖戦機構では、その目的を前進させるのであれば、嘘をつくのは、許される行為である。

イスラム教の用語で、それは“タキヤ (taqiyya)”と呼ばれる。

ブリジット・ガブリエルによると：

或る人は、聖戦とは、良き人になろうとするイスラム教徒の内的な戦いであり、いかなる武力を意味するのではないと言う。他の人は、イスラム教徒には、イスラム教を世界に広める宗教義務があるが、召命 (dawah) によって、平和的に広めるのだという。しかし、これらはイスラム教が聖戦を行う際に用いる戦術 (taqiyya または kithman) である。イスラム教徒は、うそをつくことがイスラム教のためであると考えれば、うそをうくことは奨励される (39)。

ガブリエルは *They Must Be Stopped* の中で、イスラム教の大義を代表して働いている多くの「フロント組織」(40)を特定している。

CAIR(アメリカのイスラム教関係の協議会)、KGIA(カ rilル・ジブラーン国際アカデミー)、MSA(イスラム教の学生団体)、YM(若いイスラム教徒)、YMS(若い女性のイスラム教徒)、MAS(アメリカのイスラム教協議会)、IMAM(アメリカのイラン・イスラム教協会)、AIC(アメリカのイラン協議会)、NCRI(イラン革命のための国家協議会)、ICNA(北アメリカのイスラム教組織)； ISNA(北米イスラム協会)、MB(ムスリム同胞団)、HLF(救済と発展のための聖地財団)、GRF(グローバルな救済財団)、BIF(慈善国際財団)、および他のものは、西洋のイスラム化の大義をすべて支持しており、いくつかの他の組織は、アルカイダなどのテロリスト集団に送金しているのである。

問題は、ほとんどの人々が、その影響をわからないまま、「悪の王国」、およびこれらの組織の背後で働いている悪魔の精神によってだまされているということである。

ここで私が共産党の「フロント組織」が共産主義運動の重要な特徴であったという事実について言及するまでもない。例えば、私が1960年代後半、ボウルダーのコロラド大学の学生であったとき、「SDS」(民主主義社会のための学生連合)と呼んだキャンパスグループが存在したが、それは全く無害のように思われるが、決して無害なものではなかった。

「非暴力のための調停委員会」や「地下の天気」のような(41)、他の多くのグループも指摘できるが、私的に射ていることを願う。トーマス・ヘイデン、ジェーン・フォンダ、ウィリアム・エアーズ(オバマの青春時代の親友)たちは、そのような動きに関連している「急進論者」であった。

今、米国大統領バラク・オバマが、米国連邦政府の最も高い職位にムスリム同胞団のメンバーを任命したという事実を暴露した「ネット」(2013年10月14日)の記事が出てきた。以下の人体が含まれている:

1. アリフ・アリクハン(国家安全保障省の政策担当次官補)
2. モハメド・エリビアリ(国土安全保障アドバイザー)
3. ラシャド・フセイン(イスラム会議機構 OIC の特使)
4. サレム・アルマヤティ(オバマアドバイザー、イスラム教徒公共問題協議会 MPAC の創設者、現会長)
5. イマーム・モハメド・マグリッド(北米イスラム協会、オバマのイスラム法教師)
6. エボー・パテル(信仰に基づく近隣友好の諮問委員会)
7. ジョン・ブレナン(CIA 長官)

最後の個人、CIA 長官であるジョン・ブレナンは、私には信じがたいことであるが、その記事が載せているのである。私は修正にやぶさかでない。

これらの様々なフロント組織、および権力の地位にある人々は、アメリカと世界の真実な神の精神(神性)に合わない、価値観、プライオリティ、同情心を持っているかもしれない。

目的は何か?

イスラム聖戦機構の場合、目標は簡単である。

それは、すでに述べたように、世界をイスラム化することである。すなわち、イスラム聖戦機構は、イスラム法を唱えて、イスラム教のカリフ統治を回復しようというのである。イスラム聖戦機構は、世界を乗っ取って、イスラム世界に変えようとしている。世界を「東洋」と「西洋」として見るのではなく、「イスラム教」と「非イスラム教」として見るのであり、「非イスラム教」の世界を「イスラム教」の世界に変えるために、その力で、すべてのことをなさなければならないと信じている。そのような目標を達成するために、明らかに主要な不信仰者たちの西洋世界、民主主義、アメリカ、およびイスラエルを破壊しなければならない。

統一原理が述べているように、近世400年の歴史において、特にアメリカの民主主義が築かれたが、その目的は、神の国を樹立することであった。これに反抗して、文化共産主義の背後の悪魔の精神は、サタン側の国を樹立しようとして、民主主義を滅ぼそうとしているのである(42)。これは広い意味の文化戦争である。要するに、この悪魔の精神は神に関するいかなる共感や信仰も取り除こうとしている。

しかし、私たちはさらに詳細に、この悪魔の世界の「王国」が、真実で、善なる、美なるものをすべて破壊しようとしている、その様々な仕方について論じなければならない。それは、かえって逆に、より明確に、私たちが生きている間に統一思想が果たさなければならない重要な役割を私たちに示すだろう。すべての社会問題を解決するために私たちが協力して対処するように導くであろう。

戦略の転換

20世紀の中頃(1940年代、1950年代、1960年代)、アメリカは、優れた家族中心の文化と、道徳と倫理の強い支持者であった(43)。

そのような文化的背景を考えると、共産主義者たちは、古典的なマルキシストの「暴力革命」でアメリカを倒すには、いかなる勝算もないとわかった。したがって、彼らは、アメリカの「征服」という彼らの目標を達成するために戦略を変えた。彼らは別の、より微妙なアプローチを取った。この改訂された戦略は、フレッド・シュワルツの公式として、特徴づけられる:「外的な包囲と内的な頹廢化が降伏を前進させる」。

これはまさに、共産主義者がなそうとしたことであつた：1) 共産主義国(ニカラグア、キューバなど)によってアメリカを包囲し、2) 同時にドラッグ、相対的価値観、家庭崩壊などの文化的な影響で、内的にアメリカ人を墮落させ、3) これらの戦略が結合すれば(それは数10年間もかかるかもしれないが)、アメリカは戦わずに降伏するであろう。

レーガン大統領と文師が共産主義の終焉をもたらし、外的な包囲を阻止したが(しかし再び、新しい形で再現している)、内的な頹廢化は急速に進んでおり、今日、増々勢いづいている。困ったことに、この戦略はかなりうまくいっているのである。

戦略は効果的か?

悲しいことに、共産主義戦略は野蛮な夢よりも、うまくいっている。

文師とレーガンが、冷戦においてシュワルツの公式の「外的な包囲」(アメリカの降伏)に終結をもたらすのに成功したにもかかわらず、マーク・シュタインの *America Alone* の中で示された議論や証拠——彼はイスラムの人口増加とその影響へ警戒している——を見るのは穏やかでない(45)。

率直に言えば：公式の第一はまだ進行の途中であるが、それは共産主義そのものでなくて、共産主義精神および全体を活気づける悪魔の力を持っているイスラム教(特にジハードの形で)によってなされている。

アメリカを破壊のための、共産党の騒乱リストは、大規模に達成された。驚くべきことである。

その騒乱リストには、共産主義活動の数例を挙げるだけでも、ドラッグ、フリーセックス、同性愛、家庭破壊、メディアの陳腐化、キリスト教とその価値観に対する攻撃、教会への潜入、高校や大学での教育への影響、政治への浸透などを通じて、西洋世界を弱体化することが含まれている。教会は潜入され、家庭は崩され、同性愛、フリーセックス、およびドラッグは奨励されて、広範囲に広がっている。そして、メディアはデマ、誤報、および些細なことの伝達道具になり、大学や裁判制度そして、実際、政府さえ浸透されている。文化戦争は着実に進んでいる。

アメリカを攻略するための共産主義戦略(そして、その背後の悪魔の精神)の重要な局面は、アメリカ文化へのフリーセックスの導入であつた。アルフレッド・キンゼー、ヒュー・ヘフナーのような人々を通して、マルクスの社会的な革命は効果的に性革命に変えられた。そして、アメリカの大学はその精神によって圧倒された。ドラッグはもう一つの手段であつた。インターネットが2013年10月3日の不穏なニュースを載せている。「世界的な麻薬撲滅戦争に敗北している」と。

また、特に若年層に多大な影響力を持っている芸能界は相対的価値によって浸透されている。ジャスティン・ビーバー、マイリー・サイラスのようなスターを見れば、墮落の範囲と深さを理解することができよう。芸人たちはステージの上で、しばしば半分裸で踊っており、麻薬の乱用のために、リハビリテーションセンターにチェックインすることが必要であり続ける。彼らの間違つた行動について述べるだけでない。悲しいことに、彼らはアメリカのティーンエイジャーのための新しい「モデル」になっている。

文師は述べた：

彼がどこで働いたとしても、女性が彼を追いかけて来た。彼に触れ、握り、覆いかぶさろうとした。…
…歌手やスポーツチャンピオンたちは良い目的をなそうとしているのか? それとも邪悪な目的をなそうとしているのか? 一般的にこれらのスーパースターは悪魔のような方法で世界に影響を及ぼしている。慎重に外観に手入れをする男女、一般的に、最も上品なドレスを着る男女は悪魔のような影響を世界に与えている(46)。

また、魅力的に見せようとする同性愛者のライフスタイルがある。テレビや映画では、しばしば、品行方正の人は、奇妙であるか「通じない人」として描かれ、ゲイの人はクールで、愉快で、通じる人、賢い人であり、見習うべき人として描かれる。

テレビでとても人気のある「ビッグバン理論」の俳優ジム・パーソンが、最近彼の三回目のエミー賞を受賞した後、GLSEN(同性愛者、レズ、およびストレートの組織)によって、2013年 Respect Awards の「インスピレーション賞」を与えられ、栄誉をうけた(47)。

同性愛者の人はしばしば好意的に描かれ、品行方正の人は、しばしば馬鹿にされて、否定的に描かれている。レズのヘレン・デジェネレスは毎日のトークショーで、途方もないほど人気がある。スージ・オルマンはニューヨークで最も尊敬されている財界のグルである。ロックスター、スポーツ選手、およびハリウッドの有名人が「カミングアウト」して、いくらか熱意をもって彼らが「同性愛者である」と宣言するのは、クールなことであり、それはますますアメリカの一般市民によって受け入れられているのである。

同性愛者であるハリウッドの有名人の数と、誰がそのような人かを知って、人はショックを受けるかもしれない。私は、ハリウッドの伝説的人物のロック・ハドソンが重体に陥り、最終的に、彼が同性愛者であることが明らかにされたことを思い出す。彼はハリウッドの最も有名な主演男性の一人であった。

今や、「カミングアウト」(同性愛を宣言すること)は賞賛されることになっている。「カミングアウト」する人々には、メディアに良く知られている人々も含まれている。最近(2013. 12. 31)、朝のテレビ番組の「おはよう、アメリカ」で最も人気のある司会者のロビン・ロバーツは、公共テレビ放送で「カミングアウト」した。驚くことではないが、印象的であったのは、ロバーツが「カミングアウト」したことに関する1人のジャーナリストのコメントであった。

同性愛として「カミングアウト」する有名人たちが、広がっている状況を見ると、フィル・ロバートソンのような人たちが、歴史の間違った側にいること理解するように、助長しているようである。これは、驚くべきことである。それは、「同性愛者の人々」と「カミングアウト」する人々が歴史の右側にあることを直接意味しているのである。すなわち、それは未来に、事態がそのように進んでいくというのである。

彼らには、同性愛結婚、および同性愛者のライフスタイルが一種の歴史的な決定論であるという信念を持っている。マルクスは彼の「史的唯物論」で一種の歴史的な決定論を主張した。

一人の夫、一人の妻と子供達からなる伝統的な家族は「歴史の間違った側」にあるというのだ。このような事態の展開は非常に憂うべきシナリオである。

世界を変えることを、話さない!

今、政治家たちも、恥も汚れもなく、「カミングアウト」している。

アメリカは他の国と共に、ますます同性愛者のライフスタイルに関して、寛容になっている。「ゲイのプライドデイ」には、世界中の大都市でパレードが行なわれ、同性愛者のライフスタイルを魅惑的にして、祝っている。法曹界は、ホモやレズを批判することを企てるだけで、「ヘイトクライム」、「偏狭」、「有害」と見なすようになった。

最近のニュースでは、小学校の学生が「図書見本市」に参加して、異性愛者と、同性愛者と、他の人が仲良くする広告を載せたTシャツを着ていても、誰も咎めなかった。しかし、ライフル銃、宗教を宣伝するTシャツを着れば、逮捕されたり、除名されたり、勾留されるかも知れない。

2013年11月、ハワイは同性愛結婚を合法化する17番目の州になった。オレゴンはずぐ、それにならった。2013年12月、人気のある番組 Duck Dynasty (アヒル王朝)の主演、フィル・ロバートソンは彼の信仰に関する質問にコメントした。そこには彼が同性愛者のライフスタイルに賛成しないということが含まれていた。メディア、同性愛者、および自由主義者は「間違いだ」と激怒した。

彼らが分かっていることは、同性愛者のライフスタイルが続くなら、それは文字通り人類の終わりを意味するということである。2人の女性、または2人の男性では、繁殖できないし、子供を産めない。

この問題に関して、興味深いことに、UTSの私の元同僚のマイケル・ミックラー博士が最近随筆を書いているが、そこに非常に挑発的な主張がある。

「ロシアはアメリカより神意に沿っているか？」

彼は、同性愛に関する見解を含むいくつかのカテゴリを分析して、今、ロシアのほうが真に神の意志に沿っていると主張している。過去、長年にわたって、共産主義、無神論、および唯物論の世界の中心にあった同じロシアである。

これは、アメリカがどれくらい遠く、神から与えられた天命から離れたかを明らかに、対比して示しているものかもしれない。

家族制度もまた、今日、非常な混乱のなかにある。

マルクスとエンゲルスは、この点では非常に明確、明白である。

『共産党宣言』に述べられている：

「家族の撤廃!もっとも急進的な人々さえ、共産主義者のこの恥ずべき意図にたいしては、激怒する。……ブルジョアの家族は当然なくなる」(48)。

同性愛結婚は、実際に、いたる所で促進されていて、次々と州ごとに合法化されている。ゲイのカップルのための訴訟が次々に起こされている。

ある例では、少女になりたがっている少年は、「性転換」手術を受けて、次に、少女のトイレを使用する許可を得るために法的な請求を求めることができる。また、大人達もいる。少し以前にテレビ番組の「星とのダンス」で有名であったシェールの娘になった息子のチャズ・ボノを記憶している人もいるであろう。

米国大統領のオバマは、ゲイの権利を支持することを公表しただけでなく、ワシントンD.C.の退役軍人記念館や多くのアメリカの国立公園を閉鎖しながら、2013年11月を「LGBT (レズ、ゲイ、両性愛者、トランスジェンダー)の月」と宣言した(49)。

これは「ビーバーに任せる」、「マイ・スリー・サンズ」、「パパは何でも知っている」、「オジーとハリエットの冒険」、および「ドナ・リードショー」などの古典的なテレビ番組で表された家族指向の感情とひどく異なっている。これらの番組は家族中心であり、家族重視の価値観を表しており、清潔で、すがすがしく、健全であった(50)。

すでにのべたように、メディアはほとんど、このような文化的変化をチェック、または問題視していない。多くの場合、メディアは、あらゆる機会を捉えて、そのような変化を奨励するか、あらゆる変化を“良い”ことのようなふりをしているように見える。

それはメディアがリベラルなメディアになって、多少ともリベラルな議題を促進しているからである。まるでほとんどのメディアが道徳的なものにたいして、人々の意識と感度を弱めたがっているようである。

過去約6カ月のYahooの見出しは、ばかばかしく無意味なものに関わっていることが分かる。いくつかの例は以下のようなものである。

急降下爆撃のバットで、ゲームは止まる。

リハナ、クリス・ブラウンのキス。

ケイト・アプトンの好きなビキニ。

スカンクと猫の変な組み合わせ。

オルセンは神秘のリングを見せる。

この種類の「タブロイド判のニュース」はたぶん何百万人ものアメリカ人の日々の読み物である。彼らは自己満足と無関心に包まれた無意味な生活を送っている。

実際、フレッド・シュワルツが指摘しているように、満足そうに好きなファーストフードを食べ続けて、最新のリアリティーテレビ番組を見、キム・カルダシアン冒険シリーズにおける次のエピソードを推測し続けているうちに、アメリカはすすり泣きもしないで「次第に、降伏する」ように思える。

アメリカは常に「キリスト教国家」であるが、最近、キリスト教は激しい攻撃を受けている。デヴィッド・リンボーは彼の本 *Persecution* でキリスト教が現在、法的に攻撃されている多くの例を挙げている (51)。

一方で、どんなやり方でも、イスラム教を批判するか、または創設者のマホメットに関して否定的な意見を述べることは禁じられている。

「ステルス聖戦」(Stealth Jihad) (52) のプロパガンダ部門は巧妙にやってきた。反イスラム教の最もわずかな兆候をもっている者はだれでもすぐに「偏狭」であるというレッテルを付けられる。そして、世界中、主要なイスラム文化において、見かけ上、自然発生的な暴動がおきる。

「不寛容」はリベラルの標語である。

現在、どんな種類の反イスラム教の声明も犯罪にしようとする法律制度さえある。これはイスラム聖戦機構の宣伝機関の仕事である。ミシェル・ガブリエルは、それを「イスラム教を批評するだけでも悪霊と見なそう」とするイスラム・ファシスト運動の pc 宣伝機関と呼ぶ (53)。

おそらく、ここでオバマ大統領の国家安全保障省の諮問委員会のメンバーの一人、モハメド・エリビアリが最近、彼の公共のウェブサイトにも、“R4BIA” (ムスリム同胞団として認められているサイン、4本の指を上げた敬礼) を入れたことに触れるのは適切であろう。また、アブドラ・ナシフ博士は、急進的なイスラム社会との周知の関係がある。ミシェル・マルキン は彼女の本、*Culture of Corruption* の中で、今日のワシントン政府の道徳と誠実さの欠如の広がりについて、かなり詳細に実証している (54)。

保守側からの、いくつかの新聞記事は、現在アメリカの下院と上院には最大 70 人の共産主義者(彼らは特定される)がいると主張する。イスラム聖戦機構を含んだ文化的な共産主義が合衆国の文化と政府機関に広く浸透しているという、さらなる指摘もある。「段階的な降伏」はとてもこじつけとは思えない。私たちは目の当りにそれを見ている。

教育界はさらに驚くべきである。

どんな科学的理論も「理論」のままであるのに、まるでそれが科学的事実であるかのように、進化論は学校で教えるように奨励されているが、「知的デザイン理論」について議論しようとするれば、反対される (55)。神の名前を呼んだり、または「知的デザイン理論」について言及することは許されない。そうすれば、あなたは仕事を失うかもしれない。

学校に聖書を持ち込むか、または何らかの聖書の記述のある T シャツを着た生徒は、誰かを怒らせるかもしれない。不寛容ということで、退学までならなくても懲戒をうける恐れがある。

小学校のゲストスピーカーは、様々なセックス形式について話すレズビアン、またはいかにして正しくコンドームをつけるかを話す男性同性愛者であるかもしれない。

最近のニュースでは、小学校の生徒がクォーターコインのサイズの、小さな金属「銃」の付いているキーホルダーを持っていたために、拘留された。

政治分野では、悪魔の影響はほとんど圧倒的である。私は既に現在の政府によって高い地位に任命された人々について言及した。ミシェル・マルキンは、彼女の本 *Culture of Corruption* の中で、いくらか詳細に記録している。

つい最近の 2013 年 10 月、「ウェブ」のニュースによれば、ビル・デ・ブラシオ(娘は薬物乱用者であると告白した)という「共産主義者」はマイケル・ブルームバーグの後任として、ニューヨーク市長に選出された。その上、現在の政府から出てき続ける「スキャンダル」は、非常にやっかいである。

ただいくつかについて言及すれば、ベンガジ、NSA、DOJ、Fast and Furious、および IRS があつた。

また、元大統領護衛官は、起こっているスキャンダルは、本当に「信じられないこと」であり、私たちが不正行為の実際の範囲を知れば、ショックを受けるだろうと言う。

エリック・ホルダに対するのと同様に、オバマに対する告発がある。

明らかに、現政権とその政策に関する問題がある。

「悪の王国」は、今まで以上に、私たちと共にいて、活動的、攻撃的、ダイナミックである。

これらのすべての次元の文化は雑然としていて、互いに関連しているというわけではないが、私は、それらはすべて西洋の世界を破壊するように設計された慎重なプログラムの一部であると言わなければならないと感じている。この悪魔の精神は、神のみ旨の実現に向かって前進しようとしている、いかなる人によってなされたどんな努力をも、妨げ、止めて、妨げて、邪魔し、破壊しようとしている(56)。

アン・クールターが述べているように(57)、この文化的な猛攻撃の背後の活気づける力は、悪魔、ルーシェルである。そして背後から潜入し、腐敗させる組織的な試みは「文化的な共産主義」というのである。多くの人々(お人よしとシンパ)を奮い立たせ、刺激し、促進し、指示し続けている文化的な共産主義の背後には悪魔の力がある。

人類歴史を通じて重大な悪行を犯した怪物のような人々を動かしたのは、同じ悪魔の力であつた。その力はマルクスとレーニンを動かして共産主義を生み、ジハードを活気づけ、今日のリベラル(58)な主張を活気づけているのである。

これらすべての背後にあつて、すべてを支配しているのは、悪魔とその勢力によって奮い立たせられ、動かされ、すべての良きもの、真実なるもの、美しいものを破壊するために働いている、まさに悪の霊界である。それは神に真正面から対抗する悪の王国を創設したのであり、カール・マルクスが述べたように、積極的に世界を変えている。

アメリカは、まさに今、巨大な変化に直面している。現に存在するアメリカは、私が成長した時と同じアメリカでない。世界はまた、経済的な変化を経験している。私たちは終末に住んでいて(59)、変化は起こらなければならない、予期されるものである。

しかし、この変化は真の愛に基づいた善良で、健康な家族、成熟し繁栄している社会、および円満な国々、平和な世界に向かって前進するものでなくてはならない(60)。ところが、そうでなくて、多くの変化が非常に破壊的なものである。

私たちに何ができるか？

統一思想の重要な役割

明らかに、私たちは中立的な世界に住んでいない。

すでに述べたように、すべての人とすべてのことに襲いかかろうとしている悪魔の力が実際、あらゆる所に存在している。そこで、重要な問題はこれである：

悪の王国に対抗するだけでなく、実際にそれに打ち勝つことができる力があるか？

特にキリスト教は、それがすなわち、キリスト教会の役割であると考えられる。しかしながら、どの教会がこれらの邪悪な力に対抗できるのだろうか？彼らの様々な儀式、神学は彼らを分裂せしめ、弱体化させた。多くの教会が現在、同性愛の聖職者を任命し、同性愛結婚を執り行うところまで来ている。小児愛者のカトリック聖職者は悩ましく、不愉快なニュースを引き起こした。皮肉なことに、彼らの何人かはおそらく、社会主義者、マルキシスト、または共産主義者であって、キリスト教を内部から破壊するために故意に教会に浸透したものである。

これが極端な考えのように思われるなら、実際、何年も前にニューヨークのベルベディアで、私が集会に出た時、文師が、統一教会にも共産主義者がいて、統一教会を滅ぼそうとしていたと警告したのであった。その後、興味深いことに、文師は、ワシントンタイムズが共産主義者奪われたが(61)、ほとんど奇跡的に彼の手に戻ってきたと語ったのである。文師の周囲の誰かが共産主義者というわけではないが、共産主義の影響があり、多分 3-4 レベルは取り除かれているが、その影響は感じられるのである。

霊的で神学的な特性をもっている教会にも、政治家、エコノミスト、科学者、教授にも、私たちの社会で働いている悪魔の力に対抗できない。彼らは「合理的な」人たちなのに、残念なことである。彼らに、宗教的、神学的な偏見が必ずあるというわけではない。しかしながら、彼らに不利に働くのは、彼らの自身の知性なのである。多くの近代人は、サタン、悪霊などの「時代遅れ」の、「古風な」概念を単なる迷信や幻想として、退ける傾向がある。リチャード・ドーキンス(*The God Delusion*の著者)はその顕著な例である。

それにもかかわらず、フレッド・シュワルツが彼らにレッテルを貼っているように、これらの文化的エリートたちは、お人よしであり、シンパである。すなわち、多くの政治家、エコノミスト、科学者、および教授たちは、マルクス、レーニン、ヒットラー、キンゼー、ヘフナー達と同様に、そのような力に仕えているのである。

悲しいことに、彼らがそのことが分かってさえいないかもしれないということである。インテリとして、彼らは、そのような熱狂的、宗教的な概念を受け入れて、「自分たちを低めること」を考えようとしないうであらう。彼らは熱狂的な信者ではなく、合理主義者なのである。

これは不幸にも、ルネッサンスや啓蒙思想の時代の考えに近い。

今、必要とするシュライエルマッハーのような人はどこにいるか？

フリードリッヒ・シュライエルマッハーは *On Religion*(宗教に関して、1899)を書いた：

洗練された軽蔑者へのメッセージ、それは宗教に全く新しい光を投げかけ、当時のエリート社会に衝撃を与えた。

真実の力

それでは、だれが、悪の王国に立ち向かって、勝利者として現れる能力があるか？

キリスト教会はそのようなものになろうとするかもしれないが、まさしく言及したように、彼らにはできない。学者たちは、特に彼らが社会主義プログラムへの「お人よし」であれば、彼らは知的な世界観に固定されていて、活動家というより学究的である。

私は、この任務にあたることのできるのは、統一原理と統一思想を武装した者だけであると信じている。悲しいことに、キリスト教徒たちがもっと思慮深く、統一神学と統一思想を学べば、彼らは真理の要塞となりえたのに、かえって彼らは文師と FFWPU のメンバーを迫害しようとしたのであった。そして、それは文化的な共産主義者によって歓迎されたのであった。

彼らの神学が統一神学と異なっていたために、彼らは新しい神学に懸念を抱いたかもしれないので、初期のキリスト教会の反応はいくらか理解できるかもしれない。しかし、統一神学が何を語ろうとしているのか、彼らが真摯に学ぼうとすることを妨げたのは何か？ 彼らは、何ゆえに、それが本当に何を示しているのかを知るために、真摯に統一神学を研究することができないか？ その答えはきわめて明確であると、私は思う。統一神学と統一思想を研究するようになった多くの若者たちは、この世界観の中に、よりよき世界を築くために働くことができる新たな希望、新しい人生、インスピレーションを見つけたのである。キリスト教徒たちは同じようにできなかったのであろうか？ 悲しいことに、彼らの多くは、彼らの神学によって目を塞がれていたのである。

統一原理と統一思想は、非常に明確で、論理的である。私はそれらの両方がある程度研究して、多年にわたりそれらを教える機会を与えられた。

学者の中では、私は何年も統一神学校で哲学を教えた教授、セバスチャン・マチャック博士を思い出す。彼は、統一思想を読み、研究して、私たちの世界に対するその価値を理解するようになった。彼は私たちの無理解のために、しばしば私たちを叱責したのであった。私が彼について言及する理由は、統一思想がいかに学者を奮い立たせることができるかの一例であるからである。

人々は、統一原理の中に表されている宗教的概念に関心を持たないか、多くのクリスチャンがそうであるように、偏見を持ち、反対するかもしれない。しかし社会と世界のことを心配している現代の理性的な人であれば、マチャック博士のように、統一思想のなかに新しいエネルギーと理解の源を見つけることができる。学者たちが教育、家族に関する統一思想の教えの価値を見出し始めるなら、統一思想は知的な津波のように世界を一掃することができる。それがいったん起きれば、多くのものが、良い方向に、変化し始め、私たちは働いている悪魔の力に対抗し始めることができ、この時代、世界に神の存在と神性を取り戻すことができる。

私は、統一思想と統一原理で描かれたビジョンを伴っている統一運動の他に、悪なる世界とそこに作用している力に適切に対抗できるどんな概念的で実践的な世界観も見ることができない。真の愛と他のために生きることは、特に、それが実践され、生活化されるときには、最も強力な哲学である。特に統一思想には、いかなる他の世界観にも対処し、勝ることができる、哲学的に提示された論理的で体系的な理念がある。問題は実践である。

私たちは私たちの人生で、家族とともに、その理念に生き、具現化しなければならない (62)。真のお父様、文師は私たちがその教えを行なうように、何百回、何千回も心情を注いでくださった。しかし私たちは答えられていない。それは、悲劇であり、大きな恥である。

問題

人々はイデオロギーによって大きな影響を受けている。彼らの神学、哲学、その他の見解には、様々な次元のリベラルな、あるいは独断的な考えが染み込んでいるかもしれない。

統一原理は終末に生きる我々について述べている：

新しい時代の摂理に私たちを導く新しい真理を私たちが見出すように、私たちは準備すべきである。謙虚な心を持ち、祈りを通じて、神からの靈感を受けるため最大の努力をすべきである(63)。

何人のキリスト教徒に、そのような態度があるだろうか？

多くの人々（信心深い人々さえ）は悪魔の力によって影響を受けた。もちろん、彼らがいつも悪魔的に見えるというわけではなくて、彼らは、自分たちが悪魔の力に影響されているとは、また影響されうるとは、ほとんど一度も想像しないであろう。しかし、それにもかかわらず、人々のプライド、嫉妬、傲慢、苦情、欲情、およびその他の墮落性通して、彼らに影響を及ぼし、巧妙に現れる。それが悪霊の働く一つの道である。そのほかの道もある。

世界を救うための私たちの召命

世界を「変えよう」としたマルクスと異なり、私たちは世界を「救う」ために、神によって呼ばれた。

より分かりやすく言えば、私たちは、素晴らしい愛の家庭を築き、他人にもそのように勧めるように、召命されたのである。しかし、そうするために、私たちは責任分担を果たさなければならない。

私たちはこれらの良き理念を伝え、その驚くべき理念が人々の心に染み込み、かれらの人生を変えるようにしなければならない。アカデミックで知的なレベルにおいて、私たちは、哲学者たちが、統一思想によって提示されている深遠な概念を理解するように、彼らを導かなくてはならない。

文師は、「哲学の最終的な目的地は神の発見である」と、語った(64)。

今日、無神論は科学的著書によって促進されたが(65)、神の存在について考える重要な新しい展開が見えてきている。

例えば、より有神論の観点を促進する適切な本の中に、アントニウス・フルーの *There is a God* とエベン・アレクサンダーの *Proof of Heaven* がある(66)。

フルーは哲学者、アレクサンダーは医師である。

何が将来、起こるだろうか？

それは私たちの重大な責任にかかっている。

統一原理は、以下のように述べる：

第三次世界大戦が起きるのは、必然である。しかしながら、その戦いには二つの道がある。一つは武力の戦いで、サタン側を屈服させる道であり、もう一つは武力の対決なくして、イデオロギーの闘争によって、短期間で、サタン世界を屈服させ、統一する道である。この二つの道のいずれで第三次世界大戦は戦われるのであろうか。それは人間の責任分担遂行の成否にかかっている。

この闘争を解決して、新世界を建設するために不可欠のイデオロギーはどこから来るのであろうか？それはアベル型人生観に根ざした民主主義世界から来なければならない。すなわち、民主世界から、今まで知られなかった道のイデオロギーとして現れるであろう(67)。

私たちが現在戦っている文化戦争は、原子爆弾、新型の細菌、致命的な化学物質などの、恐ろしい兵器で戦われる、熱戦に陥るかもしれない。または、世界観に基づいた、言論や価値観の戦争として戦われるかもしれない。後者は前者よりはるかに明らかに魅力的である。

だれも、言うに言えないような死と破壊の戦いを欲しない。言うまでもなく、私たちは、この文化戦争における、世界観の戦いに勝たなければならない。未来学者のジェームズ・カントンは私たちの状況をきわめて明瞭にしている：

これはアメリカとその同盟国が、時計を後に戻そうとする力に対してなされる、21世紀の天王山になるだろう。国際的なテロ、および従来の戦争の中心にある真なる脅威は、宗教、権力、または政治上の戦いではない。それは未来のイデオロギーの上での戦いである。どの思想がこの惑星を支配するのだろうか？(68)

世界観は非常に重要である。統一思想はそのような世界観である。そして、それゆえに、その思想、価値、世界観をできるだけ広く広める必要がある。

統一思想はすべての人間的、心理学的、社会的な問題を解決できる。

統一思想は世界観だけでなく、現実問題を解決するために、日常生活に適用できる実践哲学として、重要である。

統一思想の目的は、人類を苦しめてきた数多くの難問題を根本的に、最終的に解決することによって、地球規模の大家族と、永遠なる神の真の愛の理想世界を実現しようとするところにある(69)。

したがって、統一思想には、すでに述べたあらゆる問題——イスラム教の聖戦、共産主義、メディア、政治、経済学など——のすべてに答えることができる、哲学的なひらめきがある。問題は実践に関することであり、我々が日常生活でどのように、その哲学を適用するかという問題である

統一運動においても、清平で大母様が「私たちは、統一原理を知りながら、真の愛を実践していません」と繰り返し強調している。これは非常に重大な問題であって、統一運動のすべてのメンバーが謙虚に反省しなくてはならない。私たちが真の愛を実践する程度に従って、人々は私たちの祝福家庭に惹きつけられ、やがてこの世界観の価値を理解するであろう。

統一思想は、私たちが、心と体（生心と肉心）の統一を通じて、善なる人格者になるためには、何をなすべきかを示している。統一思想はまた、いかにして神の愛で満たされた理想家庭を築き、その伝統を未来の子孫へと継承していくかを、非常に明確に示している。統一思想はまた、私たちが美と繁栄の生活を送ることができるように、芸術的な人生とはいかなるものか、示している。そして真なる社会、真なる国はいかなるものかを示している。

世界の万国がその世界観、統一思想のビジョンに関してははっきりと理解して、実践し、実現し始めるまでは、世界のあらゆる所で活発に働いているカイン型の精神と力が、すべてを配するだろう。そして、たえず災い、貧困、暴力、および不正が増え続けることであろう。

統一運動の祝福された家庭以外には、そのような力に打ち勝つのに必要な、精神的、知的、霊的な備えをすることはできない。これが召命されている私たちの大きな責任であり、かならず達成しなければならないのである。

私たちには、別の選択肢が全くない。

「私」は天命を果たすために摂理歴史から呼ばれているのである(70)。しかしながら、私たちが実際に直面している問題は、ほとんどの祝福家庭に、かなりのストレスがたまっているということである。彼らは家庭の問題、健康上の問題、経済問題、および他の多くの問題と戦っている。私たちがこれらの問題を克服して、前進することができるなら、輝かしい未来がある。

悪の王国を打ち破り、真に世界を救う唯一の道は、真の愛を実践して、真の愛の人生の価値を世界に示すことである。それは非常な大きな課題である。そして、私には、統一教会のメンバーがいかにして立ち上がり、彼らの責任を全うできるか分らない。私たちは誠実な人々であり、良くやろうとしているが、財政的、霊的な挑戦は言うまでもなく、私たちの墮落性もあるので、それはとても困難なことである。その上、私たちの社会は挑戦しているである(71)。

私はマルクスから始めた、そして、マルクスで閉じようと思う。

哲学者は世界を理解しているだけであるが、重要なことは世界を変えることである。

そのことは正しいが、統一思想が来るまでは私たちは真に世界を理解していなかった。

統一思想は、初めて、私たち正しい世界観、真なる世界観を示した。

今、私たちの責任は、世界を明確に理解しえる真理に従って、世界を変えることである。

ここで私は、カール・マルクスの言葉を言い換えて終えることにする：

「世界の統一主義者、団結せよ！」

私たちには、救わなくてはならない世界がある！

Endnotes:

1. CAUSA Institute, *CAUSA Lecture Manual*, New York: CAUSA International, 1985, 79.

“Marx summed up his view of philosophy as practice when he wrote, as one of his theses on Feuerbach,” this well-known statement.

2. HSA-UWC, *Exposition of the Divine Principle*, New York: HSA-UWC, 1996, 347-361.

3. HSA-UWC, *Exposition*, 355.

4. HSA-UWC, *Exposition*, 347-361.

5. Sun Myung Moon, *Christianity in Crisis: New Hope*, 53-7.

6. Father's words on the Divine Principle, p 102.

7. Jerome Corsi, *Atomic Iran*, Nashville, Tennessee: Cumberland House Publishing, Inc., WND Books, 74-5.

8. Michelle Gabrielle, *Because They Hate*, New York: St. Martin's Press, Griffin Books, 2006.

9. Michelle Gabrielle grew up in Lebanon and experienced firsthand the terrors of Islamic Jihad. She even experienced the bombing of her own house. She managed to survive and later emigrated to America, became a journalist, and is now writing books to explain her story and to warn the Western world.

10. Gabriel, *Because*, 2.

11. Gabriel, *Because*, jacket cover.

12. Gabriel, *Because*, back cover.

13. Gabriel, *They Must Be Stopped*, New York: St. Martin's Press, Griffin Books, 2009,

cover.

14. Gabriel, *They*, back cover.
15. Gabriel, *They*, back cover.
16. Recent news item on the internet: "Islamism: 21st Century Communism, December 12, 2011.
17. Some recent books on the topic of Islam Jihad have been written, including Gabrielle, *They*; Gabriel, *Why They Hate*; Steyn, *America Alone*; Jerome Corsi, *Atomic Iran, Stealth Jihad, The West's Last Chance*, Bernard Lewis, *What Went Wrong*, etc.).
18. Universal Peace Federation, *World Scripture II: World Scripture and the Teachings of Sun Myung Moon*, New York: UPF, 431.
19. I have taught classes on world religions and paths of faith for a number of years and, more recently, out of the Cheongshim Graduate School of Theology, my colleague, Professor Do Young Yoon and I have conducted a visitation program entitled "God Has Many Names," through which we take students and interested parties to visit and participate in the religious rituals, etc. of various religions. These have included the religion of Islam, which has a mosque in Seoul.
20. Many books are congenial towards the religion of Islam, including Young Oon Kim, *World Religions*; John Hutchison, *Paths of Faith*; Huston Smith, *The Religions of Man*; Ninian Smart, and others. I have had the privilege of studying directly with Young Oon Kim at the Unification Theological Seminary in New York, and with John Hutchison at the Claremont Graduate School, in Claremont, California.
21. Dawood, *The Koran*, New York: Viking Penguin Classics, 1974, 385.
22. There is also the case of the Koran authorizing, as I understand it, a Muslim man to engage in sexual intercourse with more than 1,000 virgins.
23. Marx, *Theses on Feuerbach*, 79.
24. Sun Myung Moon, *Pyeong Hwa Shin Gyeong, Peace Messages, # 4*, New York: HSA-UWC, 2007, 70.
25. HSA-UWC, *Exposition*, 88-90.
26. UTI, *New Essentials of Unification Thought*, 387-390.
27. HSA-UWC, *Exposition*, 329. See also UTI, *Essentials*, 387-390, for an analysis of the mechanism of historical change, centering on good and evil leaders and the people following them.
28. When Rev. Moon first came to America one of the events which the UC members took part in was a memorable rally held near Wall Street in NYC. It took place on the steps of the NYC Public Library and, together with the large, and very obvious banners to the effect that: "Wake Up America! Communism Itself Is Wrong!" It caused great commotion in the city, not to mention the NY Times.
29. Those individuals who have had occasion to take part in the training in Cheongpyeong, are well-acquainted with the fact that Mrs. Hyo Nam Kim, often called Dae Mo Nim by members, conducts chanyang sessions, and speaks very straight-forwardly about the "evil spirits" which occupy our physical bodies, and which influence our minds. As a result of such influences, there is much

pain, disease, and suffering experienced by members. By “removing” such evil influences, an individual’s life can easily become much more peaceful and happy, and free of many of the diseases which afflict them.

30. HSA-UWC, *Exposition*, 351-352.

31. Mark Stein, *America Alone: The End of the World As We Know It*, Washington DC:

Regnery Publishing, Inc., 2006. “The end of the world as we know it” is the ominous expression used on the front cover of the book jacket, as a subtitle, and is self-explanatory. We in the Western world have grown up in a world of surplus, of comfort, of indulgence, and of opportunity. Stein argues that, if the present state of affairs continues, especially re: the growth of Islam, the world that we have know it will come to an end, and an entirely new world will be our reality. As one reviewer states on the back jacket of the book: In 2525, as some Eurabian scholar throws the last copy of this book into the fire, he will think to himself, “It would have been much different if they had listened.”)

32. In an ironic twist, my doctoral advisor, John Hick, wrote a classic book entitled *God*

Has Many Names, in which he speaks about inter-religious dialogue and the way all the religions of the world adhere to the same God, but that they experience this God through different “lenses” and so, God has many names, meaning the various religions. This is also the name used by us at the Cheongshim Graduate School of Theology for our outreach to the various faith traditions in Korea. It is almost as if the demonic spirit has usurped this way of thinking and used it in a deceptive and insidious manner.

33. HSA-UWC, *Exposition*, 57-65. This demonic spirit is identified in the *Divine*

Principle as the Archangel Lucifer, given the name Satan after the fall of Adam and Eve. This should not be taken to mean that Lucifer’s actual name was Satan, or that Satan is the personal name of Lucifer. As Dae Mo Nim has pointed out, the term Satan can be applied, as a generic term, to any demonic spirit, other than Lucifer, and the Bible also uses the term in this same manner.

34. Ann Coulter, *Demonic: How the Liberal Mob is Endangering America*, New York:

Crown Forum books, 2011, 287-295.

35. Fred Schwartz, *What Is Communism*: lecture series, Long Beach, California:

Chantico, 18.

36. Schwartz, *What Is Communism*, 18.

37. Definition of “dupe” according to *Webster’s New Collegiate Dictionary*, Springfield,

Massachusetts: G & C Merriam Company, 1974.

38. Schwartz, *What Is Communism*, 18.

39. Gabriel, *Because*, 149.

40. See, especially, Chapter 4, “The Muslim Brotherhood ‘Project’ for North America,”

and Chapter 5, “Madrassas in America and Abroad,” for a more extensive list of organizations. All Muslims are obligated to give “charity” (zakat), and all Muslims are obligated to wage “jihad.” If these are combined, it is easy to see how funding can be offered to groups that wage jihad. The problem is, some of these groups are terrorist groups, which bring death and destruction. Three “moderate” Muslims (Awlaki, Alamoudi, and Khan, to just mention the last names were recently found to be not

quite so “moderate.” This was in the news as recently as December, 2013. Alamoudi is even serving as the president of CNA-New York. That, I presume, is the (Islamic) Circle of America. The fact that these groups are operating in the United States, and that individuals connected with such groups are spread throughout all levels of the US government should be of great concern to any patriotic citizen of the United States, and to those who are concerned about the advancement of the providence of God.

41. The “SDS,” the Student Non-Violent Coordinating Committee, and the Weather

Underground are well-known to have been communist front groups. Even as a college student, my naivete at the time was such that I was not aware of the true nature of the SDS. Although I never took part in its activities, one could not avoid its “rallies” as one made one’s way to class. The Weather Underground is also known now as such a front group, and it is in the news lately due to Bill Ayers, now a university professor, and Bernardine Dohrn. Bill Ayers, a violent individual as a radical member of the WU, is known to have been one of Barack Obama’s friends earlier in his life. Most of these groups no longer exist, but their legacy certainly lives on.

42. It is well-known that some of the more radical groups in the Middle East have made

public their determination to “wipe Israel off the map,” and continue to call America “the great Satan.”

43. As anyone who has read the *Divine Principle* or examined True Father’s life course,

would be aware, it is apparent that True Father began his public ministry in 1945, after an intense course of personal preparation. Alive in 1945 were individuals such as M. Ghandi, Mother Theresa, Martin Luther King, Jr. and Teilhard de Chardin. Had True Father been able to communicate with such people about a possible religious council for the new UN, history may have taken a very different path. In reality, True Father was not received, and was forced into a “40-year wilderness course,” and the work of evil was free to work. This is why a short time later, providentially speaking, the family-based culture in America, which was prepared for the sake of True Father, experienced upheaval as demonic forces were able to invade America through the sexual revolution, and we are seeing the mature fruits of this moral decline today. Seemingly, one American state after another is coming to “tolerate” gay marriage, as the family continues to crumble, some even “legalizing” it.

44. Schwartz, *What Is Communism*, 24.

45. Steyn, *America Alone*, 1-40. In this context Steyn argues from a demographic point

of view, discussing birthrates, and sociological transitions. His concern becomes quite evident as one reads his words.

46. Universal Peace Federation, *World Scripture II: World Scripture and the Teachings of Sun Myung Moon*, New York: Universal Peace Federation, 2007, 639-40.

47. This news came via the Internet, 10/8/13.

48. Karl Marx and Frederick Engels, *The Communist Manifesto*, New York: International Publishers, 1979, 26-7.

49. This came through the internet news of Oct, 2013.

50. These are the television shows I grew up with in the 1950s, 1960s, and 1970s.

They were wholesome shows, centering on family values and family harmony, and they also had a moral message which came across very strongly.

51. David Limbaugh, *Persecution*, Washington DC: Regnery Publishing, Inc., 2003.
52. Stealth Jihad is the title and is appropriately titled. Islamic Jihad is attempting to infiltrate itself quietly, or “stealthily” into virtually every aspect of American culture, society, and government in a stealth (ie silent, unobtrusive, quiet and unnoticed) manner. Compare the so-called “stealth bomber” which America has created, and which can avoid detection by any radar system.
53. Gabriel, *They Must Be Stopped*, 214-15.
54. Michelle Malkin, *Culture of Corruption: Obama and His Team of Tax Cheats, Crooks, and Cronies*, Washington, DC: Regnery Publishing, Inc. 2009. This is an incredible book to read. Far beyond the copious examples of corruption Malkin does describe in her book, the entire culture of the political establishment in Washington, D.C. has seemingly become a culture of corruption.
55. For a broad, well-researched, and scholarly/scientific elaboration on the controversy surrounding Darwin, evolutionary biology, and design theory, see Jonathan Wells, *Icons of Evolution: Science or Myth?*, Washington, DC: Regnery Publishing, Inc., 2000; Jonathan Wells, *The Politically Incorrect Guide to Darwinism and Intelligent Design*, Washington, DC: Regnery Publishing, 2006; Ann Coulter, *Godless: The Church of Liberalism*, New York: Crown Books, 2006, esp. pp 198-281; and David A Carlson, *The Dawning of a New Culture*, CheongShim: GST University Press, 2008, pp 90-114.
56. For this reason the Family Pledge recited by members of the Unification Movement exhorts us to seek, to establish, to represent, to build, to strive, to embody, and to perfect the Kingdom of God, which is based on the ideal, God-centered family. It will not come on its own accord; rather, we must actively participate together in building such a family and world.
57. Coulter, *Demonic*, 287-295.
58. I use the term “liberal” here not to direct attention to any specific movement or school of thought in our modern times, but as a more generic term, a label with which to identify any thought, movement or individual working in an antithetical way to the providence of God as it is being played out in our modern times. In the use of this term, I am, to a large extent, drawing upon the tradition as it is eloquently expressed in the works of Ann Coulter, who writes about the “church of liberalism” and who in her book, *Demonic*, describes the way in which the “liberal mob is endangering America.” Taking this generic sense, one might say, to be blunt, and taking after a passage in the *Divine Principle*, that “Heaven” is of God, and “liberalism” is of the world, that is, of the demonic spirit.
59. HSA-UWC, *Exposition*, 84-95. The “last days” is a time of turmoil when changes take place socially, politically, economically, etc. Change must take place throughout the world in order to transform the world as it is presently into the world God originally designed. These changes are catalyzed by the Messiah, and have the objective of lifting up all good things, and transforming even “evil” things into good things.
60. I say “ought” to be such, since it is us who should be doing it! The world is going through enormous, even unprecedented changes right now and, as this paper indicates, these changes are deliberate. To counter the changes towards evil, we “good” people, with our “good” intentions need to come to have influence, and guide these changes in the right direction. Reference the comments

made in *Unification Thought (Essentials, 387-390)* where the direction of historical change can be changed to the “good” side if directed by good leaders who are able to win over evil influences. In the absence of such good people and good influences, history will continue to advance in an “evil” direction.

61. Please understand clearly that in my saying this I am not pointing any fingers, and certainly not indicating any individuals, but in a very general sense, it would not be surprising that there may have been some such influence along the way.
62. In virtually every speech she delivers these days, Hyo Nam Kim (Dae Mo Nim as she is known by FFWPU members) emphasizes the importance of practicing, not just learning. The practice of true love is what will “save” the world.
63. HSA-UWC, *Exposition*, 108.
64. FFWPU, *Cheon Seong Gyeon*, 63.
65. Richard Dawkins, *The God Delusion*, John Hitchens, *god is not Great*, etc.
66. Antony Flew, *There Is A God*; Eben Alexander, *Proof of Heaven*,
67. HSA-UWC, *Exposition*, 376-77.
68. James Canton, *The Extreme Future*, 351.
69. UTI, *Essentials*, 8.
70. HSA-UWC, *Exposition*, 187.
71. Reinhold Niebuhr, *Moral Man and Immoral Society*, New York: Scribner’s, 1932. He argues that although individuals might be righteous and moral at the beginning, once they become involved in an immoral society their efforts are largely neutralized. That is to say, individual Christians can love, but it is impossible to apply Christ’s law of love to large social groups. Society is always more immoral than its members as individuals. A society may never become loving, but at least it can be just. Niebuhr was a life-long advocate of social change. As Unificationists, we have a whole new concept of love, true love, and we know how that is realized. Unification Thought also claims that justice is the practice of love (true love). That is an insight not available to Niebuhr. We have the means of going beyond Niebuhr, and to actually realize a moral society, filled with moral (loving) people.